

## 越前市政報告

越前市長 奈良俊幸

早いもので、越前市が誕生して来年10月に10周年を迎えますが、本年度（平成26年度）は越前市にとって、新庁舎の建設や武生中央公園の再整備、北陸新幹線の南越駅（仮称）周辺整備など、半世紀に一度のまちづくり（基盤整備）に取り組む、極めて重要なスタートの年となります。

新庁舎の建設については、昨年（平成25年）9月市議会において私が表明した「今後の人口減少時代を見据えた『ネットワーク型コンパクトシティ』を目指し、武生と今立の2つの歴史的拠点の継承・発展を図るため、（日野川東部へ移転予定の）本庁舎を現在地に建設するとともに、（廃止予定の）今立総合支所を改築し、市東部地域の防災・コミュニティ等の機能を有する複合施設として拡充整備を図る」という方針に対し、市議会において半年間にわたって慎重な議論が行われ、（この方針を盛り込んだ）新市建設計画の変更案が本年3月市議会において議決されました。

これを受け、7月に庁舎機能のあり方検討委員会を設置し、新庁舎のあり方・機能について検討を行い、8月22日に報告書を提出いただきました。

報告書では、新庁舎建設の基本理念を「まちの活性化とまち空間再生の大きな契機とする」としており、長期的視点及びまち空間から見た検討を行いながら、将来を見据えたコンパクトで持続的に発展するまちづくりに寄与する新庁舎を目指すとし、基本的な整備方針として「まちの顔となる新庁舎」「市民に愛され、多様な市民の参画・協働の場となる新庁舎」「すべての人と地球環境にやさしい新庁舎」「効率的・機能的な新庁舎」「リスク管理機能を備えた新庁舎」の5つを挙げています。

この基本理念及び基本的な整備方針を踏まえ、9月2日に設置した本庁舎及び今立総合支所それぞれの市民検討委員会において、より具体的な機能や規模等について検討を深め、多くの市民の意見を伺いな

がら、平成27年夏頃に基本構想・基本計画を策定する予定です。

北陸新幹線については、本年7月に鉄道・運輸機構や県とともに事前説明会を開催し、9月下旬より沿線地区との設計協議を行うなど、本市においても工事着工に向けた取組みが進んでいます。

南越駅（仮称）の周辺整備については、南越駅周辺整備基本計画策定委員会を9月30日に立ち上げたところであり、平成15年度に策定した南越駅周辺整備構想をベースに、学識経験者や市民の意見を伺いながら、平成27年秋頃に基本計画を策定する予定です。

武生中央公園の再整備については、子どもからお年寄りまで多くの市民が憩う市全体のセントラルパークとして、本年度に基本設計と実施設計、並びに機能移転した市営野球場の解体工事を行うとともに、平成27・28年度に武生中央公園体育館を改築するなど、平成29年の福井国体リハーサル大会、平成30年の福井国体の開催に向け、整備を進めています。

県の丹南総合公園（吉野地区）については、平成25年9月に供用開始した野球場と多目的グラウンドに引き続き、体育館と芝生広場の竣工式を本年9月20日に行い、供用を開始しました。

原子力防災については、本年8月31日に高浜町を中心に実施された県原子力防災総合訓練に合わせ、原子力災害の発生初動期の対応を確認するとともに、市民の理解を深めることを目的に、市原子力防災訓練を実施しました。

市の訓練では、平成25年12月に策定した市地域防災計画（原子力災害対策編）などにに基づき、市原子力災害対策本部の運営訓練や避難者の受入訓練、県の総合訓練の視察を行うとともに、市独自の取組みとして、坂口地区で町内連絡網による情報伝達訓練や屋内退避訓練、原子力防災研修会を開催しました。

今回の訓練で得られた知見や課題については、今後、市住民避難計画へ反映してまいります。

産業の振興については、平成21・22年度に市が拡張した池ノ上工業団地にアイシンAW工業(株)が新工場を建設することを決定し、来年2月の完成に向け、本年5月に工事が始まりました。

また、(株)福井村田製作所が同社の敷地内に新たな生産棟を建設することを発表し、来年9月の操業に向け、本年12月に工事が始まる予定です。

伝統産業については、平成25年12月に越前箆笥が国の伝統的工芸品に指定され、本市は越前和紙・越前打刃物と合わせて3つの伝統的工芸品が揃う、全国でも有数の伝統的工芸品のまちとなりました。

また、平成26年3月には越前和紙の製作用具及び製品2523点が国の重要有形民俗文化財に指定され、文部科学大臣より指定書が交付されました。

市では、産地の紙漉き屋や問屋などから市に寄贈された2523点の用具と製品の調査・整理を平成21年度から進め、和紙製作の全容と変遷を知ることができる貴重な資料として今回、県内初の指定を受けたもので、今後はその保存と活用に努めてまいります。

さらに、越前打刃物では平成25年度に、実に22年振りとなる新規開業者が生まれ、平成26年度も新規開業者の誕生が続きました。

越前打刃物は欧米を中心に高い評価を受け販路の拡大を行っており、越前和紙もニューヨークで20年振りとなる展示会を平成25年に行うなど、積極的な海外展開を図っています。

市では、こうした各産地の成果を踏まえ、伝統産業の新しい動きに対応するとともに、モノづくりのまち越前市の特長を生かし、今後の伝統産業の発展と産業観光の振興を図るため、市工芸の里構想の策定を進めており、平成27年春に施策の方向性を定める予定です。

コウノトリが舞う里づくりについては、本年6月に福井県では50年振りとなるコウノトリのヒナが3羽、本市で誕生し、8月に行われた性別検査の結果、オスが2羽、メスが1羽と判明し、現在、幼鳥を飼育するための新たな飼育ケージの整備が白山地区で進められています。

市では、待ち望んでいたヒナの誕生を、コウノトリが舞う里づくり

の新たなキックオフと位置付け、10月19日に白山小学校において、「2014コウノトリが舞う里づくり大作戦」を開催する予定です。

今後も地元住民や関係団体等との連携を一層深め、コウノトリの野外定着に向けた生物多様性の保全・再生・創出を図るため、水田ビオトープや水田退避溝、水田魚道の整備を推進するとともに、ドジョウの養殖を進めてまいります。

文化の振興については、武生公会堂記念館において、本年度は源氏物語関連企画展として「源氏物語を彩る京刺繍」、夏休み特別展として「南越線開業100年」を開催するとともに、たけふ菊人形連携企画展として「天皇の料理番 秋山徳蔵」の開催準備を進めています。

大正から昭和にかけての激動の58年間、天皇家と宮中宴席の料理を取り仕切った、越前市出身の料理人・秋山徳蔵氏を紹介する企画展の期間中には、市内の2軒の料亭において、天皇家の食事の再現メニューが味わえます。

本市の文化の殿堂である文化センターについては、平成27年夏の完成を目指し、大ホールと管理棟の耐震補強工事に加え、大ホールの客席シートの入替えやトイレの改修、照明機器や舞台機構の改修等のリニューアル工事を本年10月から行い、利用者が安全で快適に観覧できる環境整備を図ってまいります。

以上、当面する市政の重要課題について、その取組みの一端をご紹介しました。

今後も「元気な自立都市 越前」の創造を目指して、市民との協働によるまちづくりを推進してまいりますので、武生郷友会の会員の皆様の引き続きのご支援とご協力をお願い申し上げます。